

2024年度 常磐大学 海外研修（台湾）報告書



~~~~~

研修先：敏實科技大学  
Mint University of Science and Technology

研修期間：2024年9月9日～16日

~~~~~

2024年度 台湾研修日程表

	日付	時間	実施内容	宿泊先
1	9月 9日(月)	午前 午後	成田空港 (9:25発) ⇒ 桃園国際空港 (12:05着) ＜高速鉄道＞ 桃園駅 (14:34発) ⇒ 新竹駅 (14:45着)	新竹楽群会館
2	9月 10日(火)	午前 午後	歓迎式、校内案内 AIに関する学習・夜市参観	新竹楽群会館
3	9月 11日(水)	午前 午後	中国語の勉強 (3時間) 中国料理体験	新竹楽群会館
4	9月 12日(木)	午前 午後	新竹県北埔 (客家の村)、紙寮窩見学	新竹楽群会館
5	9月 13日(金)	午前 午後	中国語の勉強 (3時間) 工業研究院、新竹サイエンスパーク見学	新竹楽群会館
6	9月 14日(土)	午前 午後	(朝) 敏實科技大学出発 ＜高速鉄道＞ 新竹駅 (9:08発) ⇒ 台北駅 (9:39着) 到着後、台北市内研修	第一大飯店
7	9月 15日(日)	午前 午後	(終日) 台北市内研修	第一大飯店
8	9月 16日(月)	午前 午後	(朝) 台北市内 ⇒ 桃園国際空港へ移動 桃園国際空港 (12:40発) ⇒ 成田空港 (16:55着)	

台湾研修

人間科学部心理学科 1 年

1. はじめに

私が台湾語学研修に参加した理由は、中国の文化に興味を持ったからです。私は春セメスターに中国語 I を履修しており、そこでこの台湾研修の存在を知りました。私は大学生の内に海外に行きたいと思っており、また、家族が今年の 3 月に台湾に旅行をし、台湾は初めての海外旅行に丁度良いと聞いていたので、この研修に参加しようと思いました。さらに、台湾の人は親日家であり、日本のアニメや漫画が人気だと聞いていたので、台湾の人にとってどれくらいなじみのあるものなのか知りたいと思いました。

2. 事前研修の内容

事前研修で台湾のテレビでも日本のアニメが放送されており、台湾版のコミックマーケットで日本のサークルや企業が出展し、そこで日本の声優がゲストとして出演するなど台湾で日本のアニメが人気であると知りました。また、アニメとコラボしたテレフォンカードや悠遊カードが販売されていたり、バイクの広告にアニメキャラクターが使用されていたりするようでした。さらに台湾にもアニメイトがあり、アニメ映画が公開されたら特設コーナーが作られているという記事を見ました。このように台湾では日本のアニメが人気で、そこで台湾の人気のアニメなど実際に調べてみようと思いました。

3. 研修中に調べたこと

台湾の学生と交流して気づいたことは、学生の中でも日本のアニメは人気だということでした。その中でも呪術廻戦や鬼滅の刃、推しの子、ハイキュー！！など日本でも人気の作品が台湾でも人気であるとわかりました。また、大学の図書館に日本の漫画が置いてあり、私が思っていたよりも身近に日本のアニメ文化が浸透していて驚きました。さらに台湾の学生はアニメのセリフや主題歌を日本語で覚えていて、アニメを日本語で視聴していたことに驚きました。アニメイトでは、人気アニメの特設コーナーがあり、日本から取り寄せたものだけでなく、台湾限定のグッズがあり、とても充実していました。また、駅ではサンリオのキャラクターがコラボしていたり、西門町ではアニメキャラとコラボして広告を出していたりしていました。中山の地下街ではアニメグッズを販売している店が多く、今度上映するアニメ映画の巨大広告もありました。コンビニエンスストアではワンピ

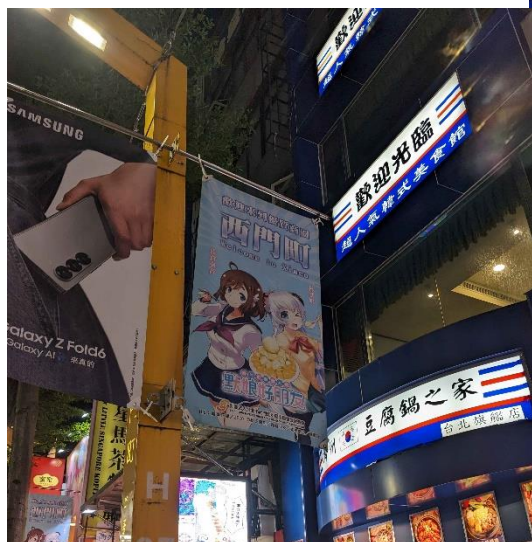
ースのお菓子が売られていました。このように、日本のアニメが台湾の文化の一部になっていることが分かり、日本の凄さを知りました。



大学の図書館



アニメイト台北店



西門町の広告



映画の巨大広告

4. まとめ

台湾では日本のアニメが密接に関わっていると感じました。台湾の学生と初対面にもかかわらず、アニメの話で盛り上がることができ、若者の娯楽の一部として存在しており、町や駅、企業とコラボする日本のアニメの影響力の大きさにとても驚きました。また、仲良くなった台湾の学生に台湾の文化を教えてもらい、海外旅行の楽しさも知ることができました。今後、海外に行く機会があればぜひ行ってみたいと思うようになりました。この研修で得た友人関係、経験を大切に生活していきたいです。

台湾研修

人間科学部心理学科 2 年

1.はじめに

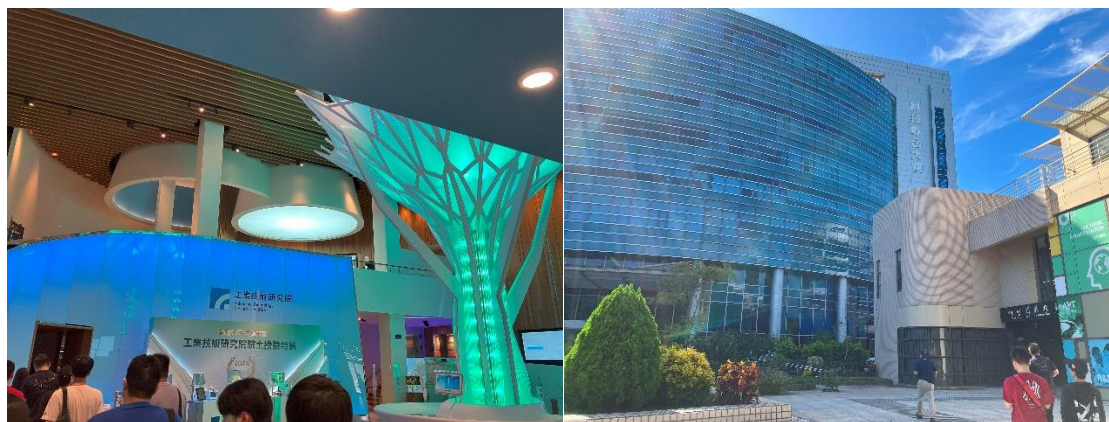
私は中国語の授業の時間に木下先生にこの研修のことを紹介いただき、台湾に行くことを決めた。決心した理由は2つある。1つは、私はそれまで海外に行ったことがなく、かねてより行ってみたいと考えていたからだ。台湾は日本から近く、親日国で、最初に訪れる海外の国として定評があった。もう一つは、中国語を学ぶモチベーションが高かったからだ。台湾では中国語が一般に話されており、大学の授業で学んだことを使いながら現地の人とコミュニケーションをとってみたいと強く思った。また、現地の人のネイティブな発音を聞いて自分の中国語をレベルアップしたいとも考えていた。

2.事前研修で調べたこと

私は、研修中に調べることとして、「台湾で日本語がどのように存在しているか」というテーマを設定した。事前研修ではインターネット上の情報を調べた。台湾には日本語学科が設置された学校が多くあること、日本統治時代に日本語教育を受けた方々がいるということ、日本のアニメ・アイドル・音楽バンド・テレビドラマの影響で日本語の勉強を始める人（若者に多い）がいること、などの理由から台湾において日本語は、他国に比べて普及していることが分かった。台湾で交流した大学の学生の中にも NARUTO など日本のアニメが好きだという人は数多く見られた。

もう一つ、研修中に訪れた工業技術研究院と新竹サイエンスパークについても事前に調べた。恥ずかしながら私は、台湾が世界的に見て科学技術の発展した国だということはおろか、半導体で有名なことすらも知らなかった。工業技術研究院は台湾半導体業界のパイオニアであり、半導体製造企業の創出や IBM 互換 PC 開発とその技術転移、科学技術人材の育成など、多くの功績を残している。新竹サイエンスパークは科学園区探索館とも言い、科学園区の歴史と最先端技術を利用した製品見本などを見ることができる。これは実際に行ってみての感想にはなるが、日本には見られないかもしれないような興味深い製品見本がたくさんあった。私が印象に残っているのは手の上に置くだけでマッサージをしてくれる超小型の機械だ。そして、ガイドの方の日本語がとても流暢で、説明もわかりやすくてと

でも面白かった。

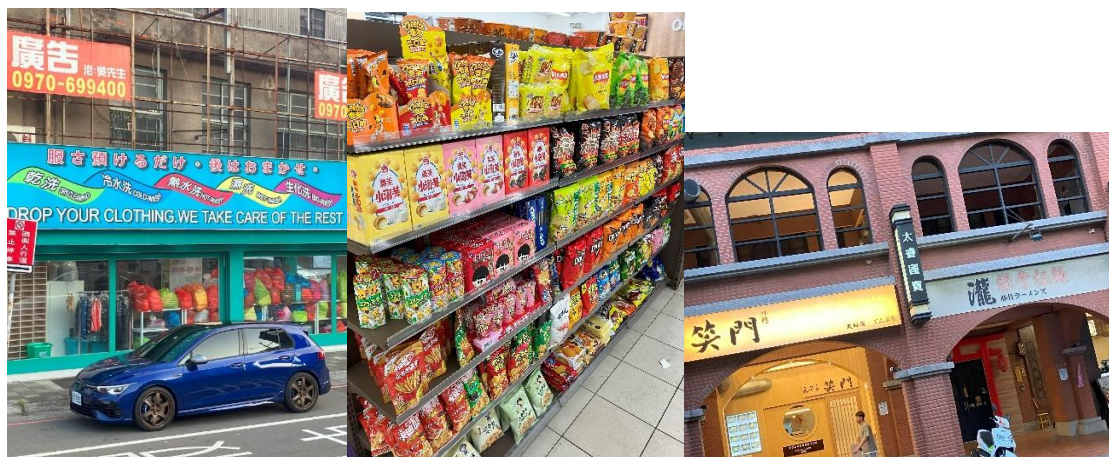


工業技術研究院

新竹サイエンスパーク

3.研修中に分かったこと

実際に台湾に行ってみて、研修中に感じたことは、主に2つある。一つ目は、町に日本語がとても多かったことだ。それは、お店の看板（日本のチェーン飲食店もあった）や、お菓子の商品名などであった。また、商店街や日本人観光客が多い場所では、店員の方が日本語を話すということも珍しくなかった。台湾の人々にとって日本語は、日本人の想像より身近なものなのだろう。お店の看板に関しては、たまに少しおかしい日本語のものも見かけたが、そんなことよりも異国の地で母国語を見かけるとすごく気持ちが安らいだ。下の三枚のうちの真ん中の写真はコンビニで撮られたものだ。お菓子コーナーには台湾のものだけでなく、カラムーチョやコアラのマーチなど日本のものも数多く配置されていた。ちなみに、台湾ではどのコンビニにも茶葉蛋（チャーイェダン、台湾風煮卵）が置かれていて、店中に八角などの独特な香りが広がっている。私は苦手だった。



二つ目は、台湾の人々の人柄だ。台湾で五日間交流した敏実科技大学の学生たちにはたくさんお世話になった。台湾では客人のことはとにかくもてなし、奢ってあげるという文化があるらしく、彼らは我々にとっても親切だった。一緒に夜市に行って魯肉麵を食べた時には、日本人の分の代金を支払ってくれたし、学内でバーベキューをした時には、前日に仲良くなった学生がみんなの分のタピオカを買ってきてくれた。夜市や北埔、台北の観光地など、初めての場所を一緒に見て回った時の頼もしい案内も印象的だ。そして、彼らの積極的な姿勢にも影響を受けた。私は普段消極的な性格だったが、向こうの学生が活発に来てくれるから私もつられて少し積極的になれた。会話は、中国語を使うことを意識しながら英語と翻訳を交えて行った。とある学生とは、中国語と日本語を教え合いながら一時間くらい一対一で話すことができてとても楽しかった。彼は日本のアニメや音楽で日本語を勉強したらしく、単語だけだったが上手に話していた。中国語を話すとみんな褒めてくれて、さらに中国語へのモチベーションが向上した。



魯肉麵（ルーローメン）



バーベキュー

4.まとめ

今回、初めての海外で台湾に行ってみて、私はたくさん学び、そしてなにより楽しかった。現地の大学生たちとの交流はとても刺激的で、拙い中国語でも伝わった時や、単語だけでも意味が理解した時はうれしかったし、連絡先を交換した何人かとはこれからも交流を続けられたらまたうれしい。食事に関しては少し不安ではあったが、独特な味付けのものもありつつ、おいしいものをたくさん食べられてとても満足できた。この研修で台湾のことがすごく好きになったし、またどこかの国を訪れてみたいとも感じた。以下には、台湾で食べたおいしい料理の数々を並べた。



擂茶 (れいちゃ)



鶏排 (ジーパイ)



餃子



魯肉飯 (ルーローハン)

参考文献

- 外国人採用サポネット (2024). 台湾の大学に日本語学科が多いのはなぜ？日本語学科の学生の魅力とは <https://global-saponet.mgl.mynavi.jp/culture/1251> 閲覧日 2024 年 9 月 3 日
- 台湾メモ (2021). 台湾のコンビニでの茶葉蛋の買い方と味の染みた卵を選ぶコツ <https://www.taiwan-memo.info/convenience-store/egg/> 閲覧日 2024 年 9 月 3 日
- はなちゃんねる台湾 (2020). 台湾人はなぜ日本語を話せる人が多いのか台湾人が語ってみた https://www.youtube.com/watch?v=faE8_yjp5Js 閲覧日 2024 年 9 月 3 日
- 訪日ラボ (2023). 台湾人に日本語が通じる理由は？歴史・親日国である理由・インバウンド誘致 <https://honichi.com/news/2020/01/09/taiwanjapanese/> 閲覧日 2024 年 9 月 3 日

台湾事後研修課題

人間科学部心理学科 2 年

1. はじめに

私は、台湾研修で「いい経験を得られるだろう」この気持ち一つで参加を決めました。新型コロナウイルスが蔓延し、高校の修学旅行が実現せず、漠然とした海外への憧れがありました。いくつかの研修プログラムの中から台湾を選んだ理由は、夏の思い出に海外に行きたかったから。それだけです。今考えると本当に安直な考えだったと思います。私は日本にはない台湾独自のレシートの仕組みについて調べました。

2. 事前研修の内容

事前研修では簡単な中国語を学びました。自分の名前すらわからない状態で、発音の多さにすごく驚きました。私は自分のチャイニーズネームをすごく気に入りました。なんだかキラキラしていてかわいかったのです。研修中にも自分の名前をきちんと紹介できたのはよかったです。漢字を使うという点は日本と似ているので、文字を見れば何となく意味が分かるものも多かったですが、全く違う意味を持つものもあったので、現地でのコミュニケーションの際には気を付けようと思いました。

また、台湾はレシートが脱税防止のために宝くじになっていることを知りました。レシートは寄付することもでき、当選している金額分が様々な団体に寄付される仕組みとなっています。他にはない珍しい仕組みが実際に普及していて、きちんと機能しているのかを自分の目で見て確かめたいと思いました。

3. 研修中に調べたこと

実際に買い物をして貰ったレシートには確かに宝くじがついていました。表面には日本と同じように、買った商品の名前とその値段が記載されています。裏面には当たった金額と本人の署名を書く欄があり、それをコンビニにもっていくと換金してもらえる仕組みとなっていました。二か月に一回抽選が行われ、専用のテレビ局もあるそうです。寄付専用のボックスも各レジにきちんと設置されていて中には紙幣も入っており、日本の募金箱と似ていました。肝心の脱税防止の問題点に関しては、店舗での脱税は防げているが、台湾には夜市の多さに伴い、屋台形態の飲食店が多く一つ一つの店舗管理が難しいため脱税を防ぐのは難しい状況になっているという話を聞きました。この話は「九扮」に行く際に利用したバスガイドの方が教えてくれました。日本語で話してくれますが、ほどよく適当な、ジョークも交えた現地の人のフランクな話し方を体験することができました。海外のバスツアーに不安があったがとても良い時間となりました。それまで、現地の人とのコミュニケーションは翻訳やたじたじの英語を使い、大変な思いをしていたので、とても安心感がありました。

実際に発行されたレシート



レシート募金箱



4. まとめ

初の海外が台湾で本当に良かったです。海外特有の自由さをたくさん感じられた1週でした。本当にすべてがよい意味で「適当」でした。一番驚いたのは学校内でのバーベキューです。生徒たちが好きに肉を焼き、歌を歌い、踊り、お酒を飲んで過ごします。時々学校で飼っている犬が遊びに来ます。台湾の学生は日本の学生にもとても優しく、たくさんご馳走してくれました。もうたくさんのタピオカをご馳走してもらい、飲みきれないと思ったので「みんなでシェアするから1つほしい」と失礼を承知の上で伝えたら10個のタピオカミルクティーが届きました。そんな出来事がたくさんありました。現地の人のやさしさにたくさん触れた一週間でした。これからもたくさんの国の文化に触れて、自分の殻を破り、視野を広げていきたいです。

台湾研修

人間科学部心理学科3年

1.はじめに

私が台湾研修に参加したのは、国際交流に興味があり海外の人とコミュニケーションをとりたと思ったからだ。また、海外に行ったことがなく学生のうちに海外に行ってみたいと思ったからだ。そして、海外の中でも比較的行きやすく親切な人も多い理由から台湾を選んだ。台湾の人の雰囲気やマナーなど実際に経験して見たいと思った。

2. 事前研修の内容

事前研修では、台湾のマナーやルールを調べた。例えば、地下鉄での飲食禁止やトイレトペーパーは流さず隣のゴミ箱に捨てるなど日本とのマナーやルールの違いを知ることができた。また、食べきれない食事は無理せず残す。台湾では、客人をもてなす際にあえて食べきれない量の食事を出す。つまり、食べ続ける限り永遠に料理が出される。日本との食文化の違いを調べたいと思った。また、飲酒や喫煙は18歳から可能で日本に比べると早い。飲酒や喫煙についても研修中に調べたいと思った。

3. 研修中に調べたこと

実際に台湾に行って驚いたことは、コンビニにあるたばこのパッケージである。たばこのパッケージに肺が悪くなっている画像や歯がボロボロになっている画像他にも真っ黒の胎児のエコー写真が貼られていてとても怖かった。日本にはないパッケージデザインにとっても驚いた。このパッケージを見ると購買意欲が薄れる。

これはタバコの警告表示である。台湾は1997年から「喫煙は健康に有害です」などの警告文字をタバコ製品のパッケージで表示するようになった。調査によると、この画像と文字の影響で、当時喫煙を辞める人は、5%も増え、子どもの前で喫煙しない意識も58%から73%に引き上げられた。



次に食文化について研修中に調べた事は、お店でご飯を食べた時、日本と比べて出される量がとても多く感じた。料理が提供、回収されるスピードも速く次々に料理が出てくるため日本のレストランのようにゆっくり話をしている時間はないと感じた。また、食べきれなかった料理は持ち帰ることができた。ご飯やおかずだけでなくスープも持ち帰ることができる。下の写真のような円卓は日本にはなかなかない文化なので円卓の使い方に戸惑うこともあった。円卓を回し、自分の近くまで寄せてからおかずをとるのだが、他の人に気をつけて自分のとりたいおかずが取れないこともあった。食に関するマナーや文化の違いは、実際に体験していてとても面白いと感じた。



4.まとめ

台湾研修に参加して、日本との文化の違いを知ることが出来ました。タバコや食文化の違いはとても面白かったです。また、台湾の人は想像しているよりも親しみやすくとても親切だった。日本に興味のある学生が多く日本語を話せる学生もいた。言葉が通じなくても英語や翻訳アプリで一生懸命伝えてくれた。新竹の街を案内してくれるだけでなく飲み物や軽食をご馳走してもらいとても親切にしてもらった。日本のおもてなしの文化は礼儀や形式に重きを置いていて、静かで繊細なおもてなしが特徴的である。台湾のおもてなしの文化は温かく親しみやすい、とてもフレンドリーなおもてなしだった。日本との違いがとてもおもしろいと感じました。台湾の人から学んだフレンドリーさや積極性を私も今後の国際交流で参考にしたいと思いました。

参考文献

台湾ミニ百科怖すぎて人気のお土産に！台湾のタバコ警告表示[台湾ミニ百科（2019-08-02）怖すぎて人気お土産に！台湾のタバコ警告表示 - 番組 - Rti 台湾国際放送](#)
台 Biz [【マナー／タブー】台湾生活で気をつけるべき注意点とは？ | 台 Biz～台湾進出ガイド～\(taiwan-biz.net\)](#)

1. はじめに

私が台湾研修に参加した理由はおもに2つあります。1つ目は海外旅行の経験です。今までの人生のなかで国外へ出掛けたことが一度もありませんでした。大学卒業まで約半年というなかで社会にでる前に一度は海外へ出向いてみたいという思いが強くありました。また私はもともと海外に興味があり、大学などで中国語を含め様々な言語を勉強してきました。その中で最も長い時間をかけて取り組んできたのが英語と中国語です。大学で学んだことを活かせるきっかけになると思い今回の参加を決めました。台湾は日本にとって身近な国であるということや費用などの面からも参加を決める大きなきっかけになりました。2つ目は将来のキャリアアップのためです。私は海外の方々と接する機会が多い仕事に就くため、各国の文化や歴史を直接体験できるよい機会だと思いました。前述のとおり大学で学んだことや今回の研修を通して体感したことは私自身のキャリアアップに繋がると思い参加を決めました。

2. 事前研修

私は事前研修でまず台湾の歴史を学びました。台湾と日本の関係や中国との政治関係などを勉強しました。この研修に参加する前まで台湾は日本人にとって身近な国というのは知っていましたが、歴史や政治を学びいい意味でも悪い意味でもとても驚きました。特に私が最も興味を持ったのが日本では珍しい「民族」についてです。台湾には4つの族群（エスニックグループ）があります。今回の研修の一部に「客家（はっか）」と呼ばれる人々にゆかりがある食べ物や建物を体験するイベントがありました。彼らの独自の文化を直接肌で体験することができました。また、台湾のIT産業について調べました。台湾はとくに半導体やAI産業が世界でもトップレベルの水準であり、世界中の物流に大きく関わっていることがわかりました。半導体とは導体と絶縁体の中間の性質をもつ物質です。導体は電気を通す物質で、絶縁体は電気を通しにくい物質です。その間にあるため、電気の制御が可能です。主な材料はシリコン、ゲルマニウム、セレン、カーボンなどがつかわれています。また、ダイオード、トランジスタ、IC（集積回路）と呼ばれる部品が半導体を形成していることを学びました。半導体は家電製品やパソコン、スマートフォン、自動車、電車、ATMなど様々なものに使われています。また、精密機械にはICチップと呼ばれる極小のものが使われています。これらを踏まえ、半導体は生活に必要不可欠なものに使われており、私たちの暮らしになくてはならない存在だということを学びました。また、個人課題として台湾独自の料理について調べました。台湾料理と中華料理の違いや日本食との味の違いにとっても興味をもちました。台湾料理の特徴としてセロリやパクチー、八角といった特有の香りを持つ食材や香辛料が具材や味つけで使われていることで

す。代表的なものとして「小籠包（ショウロンポウ）」「魯肉飯（ルーローハン）」「牛肉麵（ニューローメン）」などがあります。また台湾料理は中華料理がベースとなっていますが、最大の特徴は海の幸や魚介の出汁が使用されていて、塩味が控えめであっさりとした淡白な味付けが特徴となっていることを学びました。台湾料理の歴史は元々オーストロネシア族というフィリピンやマダガスカルに広がる民族が住んでいた土地に、中国から開拓民として漢民族が渡ったことが始まりです。移動してきた漢民族の中には福建省の人々が多かったため、作る料理は海の幸を多く使い淡白な味付けの福建料理がベースとなったことが多かったようです。そこへさらにオランダやスペインなどの西洋人、日本人が移動してきたことによって多彩な料理や食文化が台湾へ入ってきました。そこから中国の料理がベースになりつつも西洋や日本などの食文化とも融合し、台湾独自の料理ができていったということを学びました。

3. 研修中に調べたこと

私は研修中に台湾料理の味付けや特徴について調べました。台湾の学生に独自の料理は何か尋ねたところ「貢丸スープ」「パイナップルクリス」「臭豆腐」「大腸包小腸」「米粉」などを紹介してくれました。これらの料理のほとんどは実際に体験することはできませんでしたが、台湾の有名な夜市や老舗で様々な料理を体験しました。以下の図の料理は北埔老街にある「乾燥豚肉板条」と新竹のお店にある「牛肉麵」です。これらはどちらも事前



研修で学んだ「淡白な味付け」とは異なりスパイシーな味わいでした。しかし、台湾料理の歴史を振り返ると多彩な料理や食文化が融合してベースが作り上げられていっ

たことを学んだのでこれらの料理も歴史を感じさせるものでした。一方で「あっさりした



淡白な味付け」を感じられた料理もありました。左図の「乾燥豚肉板条のスープ」と右図の「麻油麵線」です。とくに麻油麵線はベジタリアン向けの料理の影響もあってよりあっさりと感じました。この2つの料理を体験して個人的に気になったことが油が多いことです。元々中華料理は水の硬度が多く、必然的に油を使う機会が多くなり

ます。この調理方法が台湾の料理にも影響していることを知り、事前研修で学んだことがより深まりました。

まとめ

私が台湾研修を通して一番印象に残ったことがあります。台湾の学生、先生は私たちに對してとてもフレンドリーに接してくれていたことです。私はコミュニケーション学科に所属していて人とコミュニケーションをとる機会が多い環境にいます。もちろん留学生たちと接することも多い中で言葉の壁は関係ないということを実感しています。この研修でも流暢な中国語が話せなくても翻訳機であったりジェスチャーであったり試すことで多くの学生と仲良くなることができました。また台湾の文化も学ぶことができ、実際に外国に行って体験することが異文化を理解する重要なことだと感じました。この研修を踏まえ、今後私が様々な人と関わっていくなかで大切なものを学ぶことができたので私自身も今回の研修が無駄にならないような行動を心がけて生活していきたいです。

参考資料

https://jp.rs-online.com/web/content/discovery/ideas-and-advice/semiconductor-basics-guide?srsId=AfmBOopJJAZCrQ8zcCA4Hafkrn7TryMHF6BAvdxoAhJVSmWBXauNVh_7

「【5分でわかる】半導体とは？生活に欠かせない半導体の基礎知識を解説！」（閲覧日 2024.9.2）

<https://hugkum.sho.jp/341804>

「実は生活に欠かせない「半導体」をわかりやく解説！世界的に不足していると言われる原因は？」（閲覧日 2024.9.2）

<https://delishkitchen.tv/articles/2238>

「台湾料理とはどんなもの？特徴や知っておきたい代表的な料理をご紹介します！」（閲覧日 2024.9.5）

台湾研修

人間科学部コミュニケーション学科4年

1. はじめに

私が台湾研修に参加した理由の一つは、中国語学習への関心です。私は以前から中国語を学習しており、今回の台湾研修は実際に学んだ中国語を現地で使う良い機会だと考えました。また、台湾の物価の安さや治安の良さ、地理的な近さといった点も、台湾を研修先として選んだ要因です。

2. 事前研修の内容

事前研修では、台湾の歴史や文化、中国語などについて学びました。また、宗教について学んでいたため、研修中は台湾の宗教について調べることにしました。

3. 研修中に調べたこと

竹紙と宗教の関係

私たちは、新竹で紙寮窩の紙工房を見学しました。ここは台湾の竹紙の生産地で伝統的な手漉きで作られています。この竹紙は「金紙」や「銀紙」といった紙銭として使用されているそうです。紙銭は、中国をはじめとする東アジアで神仏の参拝や祖先、諸霊への供養などに際して用いられます(佐藤, 2016)。紙寮窩で生産される竹紙は粗紙とも呼ばれ、福建省や広東省からの移民とともに紙銭を焼く習慣が伝わりました(徐, 林, 2017)。しかし、日本植民地時代、日本政府の帝国主義政策により、神への崇拝が禁止され紙銭の生産は影響を受けました。紙寮窩や客家の保存区では、紙銭を燃やすための金爐や銀爐も見られました。

また、台湾では街中に寺院や廟か数多く見られ、地元の信者が多く訪れていました。特に、台北の龍山寺には地元の人々だけでなく、観光客も多くいました。参拝方法も日本とは異なり、特に寺院の入る門と出る門が決まっているというというのが印象的でした。



台湾における「素食」

台湾では、総人口の13%、約330万人がベジタリアンであり、国民全人口に対する比率は世界2位です。そのため、「素食」と呼ばれる菜食主義が広く受け入れられています。伝統的な素食は宗教的戒律に基づいており、オリエンタルベジタリアンと呼ばれています（黒羽、2022）。そのため、動物性食品である三厭（天厭・地厭・水厭）だけでなく、ネギ、タマネギ、ニンニク、ニラ、ラッキョウといった五葷（五辛）も、欲情や怒りの心をおこすのを防ぐためといった理由から避けられています。しかし、現在では健康志向や動物愛護の観点から、宗教的な理由に限らず菜食主義になる人が増えています。それに伴い、素食の定義も変化しており、現在では様々な菜食主義に対応した多様な素食スタイルが受け入れられています。台湾政府の衛生福利部は、含まれる食材によって素食を分類し、それぞれ以下のように定義しています。

全素（純素）：五葷を除く植物性食品のみが含まれている。

蛋素：全素に加えて卵が含まれている。

奶素：全素に加えて乳製品が含まれている。

奶蛋素：全素に加えて卵と乳製品が含まれている。

植物五辛素：植物性食品のみが含まれている。

実際に、台湾滞在中に食事をしたレストランで「素」や「可素」と書かれたメニューが多くありました。また、街中のコンビニや土産物店では「蛋素」や「奶素」という表記がある食品を目にしました。台湾の素食は、宗教的な背景にとどまらず、健康や環境、文化的な観点からも広く受け入れられている食文化であり、様々な人々のライフスタイルに対応しているとわかりました。



4. まとめ

今回の台湾研修では、台湾の大学の見学や現地の学生との交流など、観光では経験できない研修ならではの貴重な経験をすることができました。特に、現地の学生と交流することで、生きた中国語に触れることができたのが良かったです。教室での学習では体験できない実際の会話や習慣に触れることで、中国語のスキルが向上しただけでなく、中国語学習に対するモチベーションも上がりました。

参考文献

・佐藤大樹(2016). 『紙銭習俗の源流としての瘞銭について ―唐代の紙銭と瘞銭の比較を中心に―』.

<http://repo.komazawa-u.ac.jp/opac/repository/all/36025/kzh001-06-sato.pdf>

・衛生福利部食品藥物管理署. 『包裝食品宣稱為素食之標示規定』.

<https://www.foodlabel.org.tw/FdaFrontEndApp/Law/Edit?SystemId=c68b55b2-21c2-469c-9a5b-f18e2d3cfc75&clPublishStatus=1>

・黒羽夏彦(2022). 『多様化する台湾の素食文化』.

https://www.koryu.or.jp/Portals/0/images/publications/magazine/2022/11%E6%9C%88/2211_03kuroha.pdf

・徐安晨, 林偉新(2017). 『傳承先祖造紙技藝 新「竹」紙寮文化的重生』.

https://news-cts-com-tw.translate.goog/vita/campus/201707/201707041877049.html?_x_tr_sl=zh-TW&_x_tr_tl=ja&_x_tr_hl=ja&_x_tr_pto=sc

台湾研修

人間科学部健康栄養学科 2 年

1. はじめに

私が台湾研修に参加するきっかけは、今年タイ研修に行き、食文化やルールの違いなどたくさんの学びをすることができ、価値観が大きく変化した。そこで他の国だとどう違うのか新しい世界を知りたく参加を決断した。

2. 事前研修の内容

台湾の食事について調べた。その中でも飲食店にある調味料や台湾人の味の好みについて調べたいと思った。実際に検索すると日本人が書いたブログや記事が出てきてしまったため、詳しく調べることはできなかった。台湾に行ったら実際にお店に入り、調査することや1週間の食事を通してどのような物が多いかを調べたい。

3. 研修中に調べたこと

日本では、テーブルの上に塩、胡椒、一味など料理の味を変化させる調味料があるが、台湾のお店に実際にお店に入り調査した結果、テーブルの上には何もなかった。そこで、台湾の人達は、出てきた食事を自分好みにすることがなく、素の味を楽しむと考えた。また、回転率も速かった。その理由もあり、テーブルに調味料が置かれていないとも考えられる。取り分けるお皿がすでに用意されているのも印象的だった。研修中に入ったお店はすべて先払いだった。財布を忘れて払えないなどのトラブルもなく良いと感じた。



新竹で食べた食事は香辛料が効いており、独特な味を感じることができたが、台北で食べた食事は、クセが比較的になく、食べやすい食べ物が多かった。新竹には多数の客家の人たちが生活しているため、客家料理が多いことが分かった。客家の人の食べ物は油を使った食べ物が多いと感じた。

写真 左、板切れ 上、客家の炒め物
下、野菜ゆで 右、ワンタン

また、プログラムの一環で調理実習をする場面があった。水餃子と角煮をつくった。

本場の中華鍋や中華庖丁を実際に扱うことができ
良い経験になった。ブロッコリーを熱湯の中に湯
がいて害虫を取り除いたことと、根を削いだこと
が印象的だった。角煮はじっくりと1時間40分煮
ることでうま味が凝縮されており、お肉がホロホ
ロですごくおいしかった。水餃子の細切れ肉を叩
き繊維が柔らかくなるようにした。とても疲れた
が楽しかった。



4. 現地での活動について

お世話になった、敏實科技大学の学生たちが4日間、授業や観光の手伝いをしてくれた
た。AIが発展している大学のため、AIで詩を作ったり、動画を作成したり、日本の歌
を歌ったりなど、現地学生との交流ができて楽しかった。お互いに言葉が通じない中で



翻訳機や手の動作、顔の表情などで相手に伝えること
で言語の壁を超えることができてよかった。中国語の
勉強では日本語の発音とは違い4声あるため同じ言葉
でアクセントのつけ方で意味が変わってしまうため発
音に気を付けなければならないところが難しかった。
竹のくずから紙を作る体験をした。日本の和紙は紙に
なるまで約10日かかるが、新竹の紙はわずか1時間ほ
どで完成し、丈夫さもあった。客家の伝統的な飲み物

「擂茶」(れいちゃ)を作る体験もした。雑穀や豆など
をするつぶしペースト状になったら、抹茶を加えさらに混ぜた。お好みでお皿にとり、
熱湯をかけて飲む。ドロツと感があり、ピーナッツの風味も良かった。夜市や市場に連
れて行ってくれた際にはたくさんのおもてなしをしてもらい、タピオカやごはんをご
ちそうもらった。

台北の方では班行動をしたが、道に迷った時に台湾の人に
翻訳機で聞いたが日本語で返してくれたり、丁寧に教えてく
れ、暖かくて優しい人が多いと感じた。

台北の観光地には日本人が沢山いるため、すれ違う人の言
語が日本語ばかりでここが台湾だという実感があまりわか
なかった。日本の駅とは違い飲食ができないことで、むせて
しまった時にあめも水も飲めなかったのがつらかった。



5. まとめ

行く前は、トイレトペーパーが流せないことや言語が違うことで不安を感じていたが、実際に行くことによって台湾の人はみんな暖かく優しいというのを肌で感じ良い印象に変わった。前回の海外研修では、バディーや引率の先生に沢山頼ってしまい、移動やお金の使い方を自分から進んですることはなかったが、今回は自分から進んで移動やお金を使うことができた。また、翻訳機などを使い現地の学生と仲良くなることができ言語の壁を乗り越えることができた。台湾研修を通して自ら進んで行動することを学んだ。この経験を今後も活かしていきたい。

台湾研修

総合政策学部経営学科 1 年

1. はじめに

私が海外研修に参加しようと考えた理由は、もともと海外に興味があり行ってみたいと思っていた時に、学びの技法の授業で台湾研修についての話を聞いたからだ。社会人になってからはまとまった休みを取るのが難しく金銭面でも多くかかるため、研修という形で大学生のうちに行ってみようと思い参加を決めた。また、台湾は日本と比較的距離も近く、関係性も良いので初めての海外と考えると行きやすいとも感じた。

調べたいと思ったことは、日本と台湾の街並みの違いについてだ。台湾は親日であるため建物や人の感じなど似ているイメージがあるが実際はどうか、共通点や相違点を詳しく知りたいと考えた。

今回の台湾研修を通して、中国語で自己紹介や簡単な挨拶ができたり、台湾の有名な食べ物を食べるなど、現地の人と多く関わり、より多くの文化に触れたいと思った。

2. 事前研修の内容

私は、事前研修を通して中国語での自分の名前の言い方やよく使うフレーズを学んだ。中国語の履修をとっていたわけではなかったのですが中国語には 4 種類の発音方法があることに驚いた。この発音が違うと同じ音でも意味が変わってくるためとても難しく、日本にない発音を使う単語も多くあり苦戦したのを覚えている。しかし、練習を重ねるたびに口の動かし方のコツや発音の方法などがわかってきて中国語を話すのが楽しくなり、早く現地に行って実践してみたいと思うようになった。

また、グループで台湾の料理についても調べた。台湾料理には日本でもなじみのある小籠包やルーローハンなどがある。他にも豆漿や臭豆腐など初めて聞く食べ物もあった。実際に現地に行ってどんな味なのか確かめてみたいと思った。

台湾に行って日本と台湾の街並みの違いについて知りたいと思っている。事前にインターネットでそれぞれの国の街並みをみると建物や道路などの点で違いがみられた。台湾は高温多湿で雨の多い気候であるため、道路や路地には 2 階より上の居住空間が道路上にせり出し 1 階がアーケードになるという特徴をもつ「騎楼」が見られる。こうすることで歩行者にとっては雨や日差しをしのぐことができ、1 階のお店にとってもお客さんを勧誘するのに適している。しかしデメリットとして騎楼は私有地であるため持ち主の私物が置かれ歩道のスペースが圧迫されていることが多いという点があげられる。これに対して、日本にはこういった建物はほとんど見られず日陰や雨除けは少なく、全体はずっと広々としていて歩きやすい印象である。他にも、住宅地に関する厳密な基準がないため、同じ建物内に住宅、会社、店舗があるのが一般的であることや、建物の内装のお風呂とトイレについてで日本では一般的に分離しているが、台湾では通常バスルームとトイレは同じスペースに設置され専用の脱衣室もな

いことが多いことが分かった。これらは、実際に台湾に行ってホテルに泊まったり、夜市を歩く機会があるのでその際によく見てみようと思う。

3. 研修中に調べたこと

研修中に調べたことは、台湾の街での建物のつくりや室内の構造についてです。事前研修で分かっていたように、同じ建物内に店舗があったり、歩道のスペースが日本に比べて圧倒的に少ないことなどあらためて分かった。驚いたことは、台湾ではバイクが主流であるとはいえ車も多く通っているように感じたが、バイクの駐車場はいろんな場所にあったのに対し車の駐車場らしきものは見当たらなかった。コンビニや飲食店などの店も道路のすぐそばに設立されていて車で立ち寄ろうとした人はどこに車を止めるのか疑問に思った。これに関係してくることとして、道路上に車が何台も止まっているのを見かけた。このことから、台湾には日本とは違いしっかりとしたルールはないように感じた。交通に関することはまだわからないことが多くあったので調べてみようと思う。

また、建物の内装についてだ。実際にホテルに泊まってみて基本的にトイレとお風呂は同じスペースにあることが分かった。日本では別になっていることがほとんどでその生活に慣れているため、戸惑ったり生活のしづらさを感じた。



4. まとめ

今回の台湾研修を通して、現地の食文化や生活様式、交通の違いや人柄・言葉など様々な文化に触れることができた。新竹の大学での学生との交流でネイティブな中国語を学ぶことができたり、一緒に夜市を案内してもらって観光したりと日本ではできない体験が多くあった。最初は どうしたらいいか分からず戸惑ったこともあったけれど翻訳機を使用したりたまには自分で言葉をしゃべってみたりと積極的に話しかけたことで自ら行動する力が身についたと思う。また、翻訳機を使ってもうまく伝わらなかったときに英語を使って話し、完璧な英語を使わなくても簡単な英単語やジェスチャーを使えば相手にも伝わることを実感することができた。今後も国際交流をする場面や海外に行く機会があれば、今回の経験を活かしていこうと思った。

台湾研修

総合政策学部経営学科 1 年

1.はじめに

私が台湾研修に参加しようと思ったのは、学びの技法の授業で紹介されたのがきっかけである。まだ一度も海外に行ったことがなく、大学生のうちに一度は行ってみたいと思っていたし、友達に誘われたのもあって、今回の研修に参加することを決めた。また台湾は、初めての海外でも行きやすいと聞いたのも今回の台湾研修に参加しようと思った理由の一つである。

調べたいと思ったことは、日本にある台湾料理と台湾の台湾料理の違いについてである。日本にある台湾(中華)料理とはどのような違いがあるのかを知りたいと思ったからである。

2.事前研修の内容

事前研修では、台湾の歴史や台湾事情、中国語の発音の仕方や簡単なフレーズについて学んだ。今まで台湾の歴史などについて触れることが多くなかったため、事前研修で初めて知ることが多くあった。中国語については春semesterで履修していたわけではなかったのに、誰でも知っているような単語しか知らない状況だったが、発音の仕方には4種類あることや、自分の名前の言い方などについて知ることができた。中国語は思っていたよりも発音の仕方が難しく、しかも、発音の仕方によって言葉の意味が変わってしまうのが特に難しいと思った。また、グループ単位で台湾の食べ物や飲み物のことについて調べた。日本でも有名なものから初めて聞くものまでいろいろな食べ物について知ることができたし、台湾には日本のコンビニくらいの感覚でドリンクスタンドがあるということについても知った。他にも、地下鉄メロでは飲食が禁止であり、飴やガムを食べたり水を飲むだけでも、見つかったら罰金がとられるということを知ることができた。

日本にある台湾(中華)料理との違いについて、事前研修では、台湾料理の特徴について調べた。台湾料理は中国の福建省の料理がベースとなっており、そこに独自のアレンジが加わり発展していったものである。台湾料理は食材を余すことなく使ったり、特有な香りを持つ食材や香辛料が具材や味付けで使用されるという特徴があるということが分かった。

研修では実際に料理を作るのを体験することができるので、そこで実際にどんなものが使われているのかを見てみたいと思った。

3.研修中に調べたこと

日本にある台湾料理との違いについては、研修中に実際に台湾の料理をつくるなかで、どのような食材が使われているかを調べた。茶皇無錫排骨と水餃子(右下画像)を作ったが、日本では聞くことも使うこともほとんどない八角などの香辛料が使われていた。また、どちらの料理にも砂糖を入れていたことが驚きだった。特に餃子には砂糖のイメージがないし、日本で作った時に入れなかったのが驚いた。そのため、冷めると料理が甘くなっているように感じ

た。味付けに関しては、日本よりもだいぶ濃く塩味が少し強いと感じた。味以外での違いを挙げると、お肉や野菜の下準備、包丁が大きいこと、ひき肉は包丁を使ってお肉を細かくして作ること、餃子の包み方、料理で使う鍋が大きいこと、火力が強いこと、台湾の学生が料理に慣れていることなど日本とは違うと感ずることが多々あったように感ずる。



飲み物に関しては、事前研修で調べた通り、ドリンクを売っているお店が多いと感じた。台湾の学生がタピオカドリンクなどを持っている姿もよく見かけた。実際に買ってみて、甘さを選べたりできるところは日本と似ているが、日本よりも台湾のほうがえらべる幅が広く、サイズが大きいと感じた。また、お土産を探していて、お茶の種類が多いと思った。特に緑茶の種類が多くあった。日本のお茶と台湾のお茶は茶葉にも違いがあり、日本は細くなっているものがほとんどだが、台湾は細かくせずに葉っぱの形のまま乾燥して小さくなっているような感じだった。そのため、茶葉が開くことを考えてあまり多くの茶葉を入れないということを知った。それだけでなく、一回使った茶葉はすぐに捨てるのではなく、何回か楽しむことができるということも知ることができた。



4.まとめ

今回の研修で、台湾の文化に触れたことは、とても新鮮だったし貴重な経験になったと思う。学生のみならずともフレンドリーに接してくれたので交流がしやすかった。基本的に翻訳機を通しての会話だったが、いろいろな学生とたくさん話すことができてよかったと思う。また、中国語の勉強でも発音の仕方や発音が似ている単語の言い方の違いなどを何度も丁寧

に教えてくれたり、授業のなかで簡単なゲームをしたりしたことで楽しく交流をすることができ
たし、何より中国語を楽しく学ぶことができた。

観光しに行くだけではできない、研修ならではの体験がたくさんできたのでよかった。今後、
海外に行く際には今回の研修でのことを生かすことができたらいいと思う。

台湾事後研修課題

総合政策学部経営学科 2 年

1. はじめに

私が台湾研修に参加したきっかけは、海外研修のプリントを見たことだ。私は、もともと海外に興味を持っていて、研修に参加したいと考えていた。日本に比較的近い位置にあり、食文化も日本と似ているところがあることから台湾を研修先を選んだ。

2. 事前研修の内容

私は事前研修まで中国語を習ったことがなかった。そのため、事前研修で中国語の発音や、自分の名前、簡単な文章を学んだ。また、台湾の文化についても少し学んだ。台湾では外食が主流であり、ほとんど料理をしないという家庭もある。さらに、台湾ではリサイクルに積極的に取り組んでおり、ごみの分別が細かいということや、バイク社会だということを知った。また、私たちの班では台北市内の観光地について調べて発表した。夜市や、伝統的な建物、台北市内だけでなく近郊についてもまとめ、7日目にある自由行動の参考になった。ほかにも、食事のマナーについても調べた。台湾では、円卓のテーブルで食事をすることが多い。そして、食事は食べ残すことが正しいマナーだということが分かった。日本では円卓で食事することはほとんどなく、さらに食べ残すことは行儀が悪いとされるだろう。この2点は日本とは違ったマナーだと思った。台湾では事前に調べたマナーが本当なのか、ほかにもマナーがあるのか調べたいと思った。

3. 研修中に調べたこと

実際に台湾で食事をして分かったことがいくつかあった。1つ目は、必ずしも食事を食べ残さないといけないわけではないということだ。近年 SDGs の影響で食べきることを推奨されているため、この考えを持っている人は少ない。食べきれない場合は、残った料理を持ち帰ることもできるということが分かった。2つ目は、台湾の人は招いた場合、ほとんどの食事をおごる文化があるということだ。これは私が今回の研修で体験した。現地の学生が夜市周辺を案内してくれたのだが、タピオカジュースをおごってくれた。ほかにも、昼食を案内してもらって食べた日もあったが、財布を出して支払おうとすると「NO! NO!」と断られ、ごちそうになった。3つ目は、取り皿をティッシュなどで拭き取ることだ。台湾の学生になぜ拭くのか聞くと、「衛生環境がいいとは言えないから念のため拭いている」とのことだった。食事のマナーは事前に調べていったこととはほとんど違ったが、時代によって柔軟に変化していることが分かった。また、マナー以外にも日本ではあまり見ない決まりなどもあり、新鮮だった。



研修中は、調べたこと以外にも印象に残る経験をする事ができた。2、3、5 日目は敏實科技大学の学生と一緒に授業を受けて交流することができた。現地の学生はとてもフレンドリーで、Google 翻訳や簡単な英語で会話をした。その後一緒に夜市を行動したりすることで、より仲良くなれた。4 日目は北埔へ移動し、擂茶や紙作りといった客家の人々の文化を体験した。擂茶体験では、ナッツなどをすり鉢で細かくし、ペースト状にするが、細かくすることがとても大変だった。初めて擂茶を飲んだが、中にお米も入っていて甘く、不思議な味だった。紙作り体験では、竹から紙を作るということで出来上がりは固い紙を想像していたが、実際は柔らかく、普段私たちが使っている紙と同じぐらい柔らかかったため、驚いた。



4. まとめ

台湾でのマナーは日本と違うところが多く、日本では当たり前とされていることが台湾では失礼となってしまうこと、事前に調べたものはすべてが正しいマナーではなかったが、年齢や時代によって変わることがわかった。また、台湾の人々は日本人にとっても親切で、日本語を話して対応してくれるお店も多かった。初めて海外に行き、母国語以外でコミュニケーションをとることや、現地の文化に対応することは難しかったが、日本と違う部分をたくさん見つけることができ、勉強になった。現地の学生と交流したことや、文化を学ぶことができてとても楽しい研修となった。

参考文献

狐月庵(2019)「カルチャーショック必須?! 気になる台湾の食事マナー」『狐月庵』

<https://kogetsu-an.shop/taiwanblog/food/1511/>(閲覧日: 2024 年 9 月 24 日)

台湾旅行.jp(2018)「【台湾の食事のマナー】で絶対に NG と OK を簡潔に 3 分で紹介します」『台湾旅行.jp』 <https://xn--kprw82bnlg9z1a.jp/table-manner/>(閲覧日: 2024 年 9 月 24 日)

台湾研修レポート

総合政策学部経営学科 2 年

1. はじめに

私が台湾研修に参加した理由は、海外へ行ってみたい、料理、お菓子を食べてみたい、台湾の景色を見てみたいなど、様々な理由もあるが、一番大きな理由は、夏季休業期間を使い、なにか新しい経験をしたいと考えたからである。私は普段、外出することを好むタイプではないことや、会話があまり得意ではないことから、積極的に行動すること、人と関わることが少ない傾向にある。しかし、これから社会人になっていく上で、様々な方と関わることになることを考えると、私はもっと積極的に一步を踏み出し、人と関わっていき、行動を起こすという面でも、人とコミュニケーションをとるという面でも、多くの経験を積むことが必要だと考えていた。そこで、台湾研修がタイミング良く夏季休業期間に開催されることや、期間や、かかる費用、台湾が初めての海外に良いことを知り、最終的に参加することを決めた。

2. 事前研修

私は今回の台湾研修では、台湾で好まれている日本のものはどのようなものがあるのかを調べることにした。

事前研修の際に台湾について調べて分かったことは、台湾では非常に多くの日本文化が浸透しているということである。街中を歩けば、「日式○○」といったお店が良くあり、台湾にいながら日本のものを堪能できるとあった。さらに、台湾では、「哈日族（ハーリーズー）」といって、日本のものが好きでたまらないという意味を持つ造語もあることが分かった。哈日族のピークは 2000 年であり、そこから今でも日本の人気は続いている。また、台湾と日本の関係を語る上で欠かせないものが、日本が台湾を統治していた時代である。日本の統治は 1895 年から 50 年続いたとされている。その間、台湾の人々は、日本語の学習を強要され、日本の生活を受容されていた。しかし、統治されていたからといって、すべての台湾人が日本を憎んでいたりするわけではなく、なかには統治時代が終わっても、日本語を好んで話したり、日本の生活様式を楽しんだりする人もいたという。以上のように、台湾では、日本の文化が広く浸透していることが分かった。

3. 実際に台湾で調べたこと、感じたこと。

実際に台湾に行き分かったことは、事前研修で調べたこと以上に、台湾では、日本の文化が浸透しているということである。調べた通り、商店街で日式と書かれた飲食店なども見かけた。また、飲食店に限らず、至るところで日本語が書いてあるのを確認することができた。

新竹の学生に、流行っている日本のものを聞いたところ、「色々なものが流行っているため、はっきりと答えられない」と言われた。何人かに流行っているものを聞いた際、共通していたのは、「ラーメン」だった。しかし、インターネットの口コミでは、台湾での日式ラーメンには当たりのお店とはずれのお店があるようで、はずれのお店のラーメンは日本のものとは異なる味をしており、あまりおいしくないと記載があった。当たりのお店では日本のラーメンそのままの味が味わえるらしい。他の食べ物の流行としては、台湾本土で流行っているわけではないが、台湾の方が日本に来た際には、牛乳を飲んでいく方が多いということが分かった。また、台湾の学生さんが乳酸菌飲料を良く飲んでいることが分かった。一緒にコンビニに行った際に、「この飲み物は日本のヤクルトだよ」と教えてもらい、日本の飲み物も人気があることを知った。台湾のヤクルト日本のものと比較すると味は全く同じだが、サイズがとても大きかったことが印象的である。



日本の文化的なものも台湾で非常に流行っていることが分かった。学生に得に人気だったものは、日本の漫画である。日本でも大ヒットしている漫画から、日本で連載が始まってから数年しかたっていないものまで、幅広い漫画が読まれていることが分かった。学校の図書館にも、多くの日本の漫画が展示してあった。また、漫画をスマートフォンで読んでいる方に見せてもらったところ、漫画が、中国語に翻訳されているアプリがあり、そこから読んでいることが分かった。日本の漫画が人気だからこそ、そのようなアプリが開発されていると思うので、そこからも日本の漫画が人気なことが伺える。

台湾で人気なものは、漫画だけでなく、アニメや映画、テレビ番組も人気があることが分かった。台湾で有名な九份は、ジブリ作品の千と千尋のモデルになったと言われている場所である。実際に九份へ行って見たが、日本人観光客も多く、至るところから、日本語が聞こえてきた。雑貨屋さんなども多くあったが、ジブリの音楽を流していたり、表記が日本語になっていたり、日本にいたとを感じるくらいに、九份は日本のものであふれていた。台湾の

方が、ジブリ作品のグッズを所持しているのも何度か見かけることができた。私もジブリ作品が好きなため、グッズを持っている人が日本でない国でもみられることが嬉しかった。

台湾では、日本の食品や文化などさまざまなものが好まれていることが分かった。今後も両国間での文化的なつながりがより一層深まれば良いと思う。



4. まとめ

私は台湾研修へ出発するまで、台湾研修に参加することを不安に思い、暗い気持ちになったり、頑張ってみようと意気込み明るい気持ちになったりを繰り返していた。私にとって初めての海外であることに加え、中国語は挨拶程度しか分からず、英語も得意ではないからである。もちろん国際線にも乗ったことがないため、日本の空港から出国することも不安だった。台湾研修は、出発するまでにたくさん下調べを行ったり、現地についてからも情報収集を行ったりと、私が生きてきた中で、一番丁寧に調べものを行ったと感じている。その成果もあり、空港の手続きで大きくつまづくことなく、台湾での電車の乗り換えも無事にできたと思う。また、下調べをしたことだけではなく、現地の人に英語で質問をしたり、案内板を良く見て動いたりして、しっかりと目的地までたどり着くことができたことが、少しではあるが、「私もまったく知らない土地でも行動できるんだ！」という自信につながった。正直に振り返ると、今回の台湾研修は不安に感じることも非常に多く、楽しむことよりも、不安に

思うことの方が記憶に濃くなってしまったが、不安に感じていた分、慎重に行動し、安全に台湾を楽しめ、私の初めての海外という経験は成功したと考えている。次回、台湾に行く際は、今回の不安を上回る楽しい経験をたくさんしたい。今回の研修で、当初の目的だった、新たな経験を積むことは達成できたと思う。今回、台湾研修で頑張れたことを糧とし、今後、積極的に行動すること、一歩を踏み出すことを頑張っていきたい。

台湾研修

総合政策学部法律行政学科 2 年

1 はじめに

私は今年の春に中国語の授業を履修し、中国語について関心をもったため今回の台湾研修に参加しようと決めました。もともと国際交流には興味があったものの、言語が違ったり文化の相違など他国の人との交流には不安がありました。今回の研修では現地の大学のできるだけ多くの人と接することや、中国語を使って現地で活用してみるなどの目標をたてました。

私が今回の研修で調べてみたいと思ったテーマは日本と台湾の教育事情の違いについてです。私は塾でのアルバイトの経験や教員免許の取得を目指しているため教育関係の分野について興味があったためこのテーマにしました。

2 事前研修の内容

事前研修では中国の歴史を学んだり中国語の授業を行ったりしました。中国の歴史は民族運動や革命など非常に複雑なため難しい分野であると感じましたが、台湾研修に参加するにあたり現地の人々との交流があるため学んでおくことは重要であると感じました。また、中国語に関しては中国語 I の授業を履修していたためある程度の発音は理解しているつもりでいましたがやはり日本語にはないような発音が多いため現地の人との会話が成り立つか不安でした。

また、事前研修では自分で調べたいテーマとして日本と台湾の教育関係を挙げました。日本には教育格差や進学率の低下など様々な教育問題があるのに対し、台湾では日本と比べ進学率が非常に高いためその理由について調べてみたいと思いました。台湾では日本と同様、義務教育は 9 年間ですが、高校は職業教育と普通教育に分かれています。大学進学率が高く、進学試験が重要な役割を果たします。テクノロジー教育が重視されており、特に STEM 教育(科学、工学、数学)の分野に力を入れているというのが調べた結果分かりました。研修では実際に現地の大学の生徒達との授業を通し、どのような教育体制になっているのかを学びつつ、現地の学生や先生方にこの問題について聞いてみようと思いました。

3 研修中に調べて分かったこと

研修中に調べて分かったことはまず、私たちが滞在した敏実科技大学での授業時間が日本の大学と比べ短く、一つの授業の時間が日本では 90 分であるのに対し、敏実科技大学では 50 分でした。日本の大学のように大きな講堂が少なく、通常の授業でもあまり使わないというのが分かりました。そのため日本よりも授業の規模が小さいためグループでの話し合い活動が頻繁に行われているそうです。また、現地の学生に台湾で大学への進学率が高い理由を聞いてみたところ入試ルートが多様であり、受験生にとって進学しやすい制度があ

ることが分かりました。政府や大学からの奨学金や経済的支援も充実しており、経済的理由で進学を諦める学生が少ないというのも理由の一つとなっています。



4 まとめ

今回の台湾研修では多くのことを学ぶことができました。実際に現地の人々と会話する機会が多かったため授業で学んだ中国語を使ってみました。あまり伝わらず最初は不安でした。しかし、英語やジェスチャーを用いると意外とコミュニケーションがとれたため結局は相手に伝えようという気持ちが必要だということが分かりました。他にも台湾の独自の民族や文化を知ることができとても貴重な経験になったと思います。

今後も積極的に海外に行き、他国の人々との交流や文化を学んでいきたいと思います。



台湾研修

総合政策学部法律行政学科 2 年

1. はじめに

私が、台湾研修に参加しようと思った理由は、今まで一度も海外に行ったことがなく、大学生のうちに一度は、海外に行きたい、海外を経験したいと考えたからである。台湾は、説明会でもあったように初めて海外に行く人におすすめであり、台湾に旅行に行った親戚からも絶対行くべきであると強く勧められ後押しされたことも参加したきっかけの一つである。

私が、台湾研修で調べたいと思ったことは、日本と台湾のコンビニエンスストア販売店事情の違いである。私は、現在、セブンイレブンでアルバイトをしていること、そして、現代社会において欠かすことのできないコンビニが日本と台湾で、商品の品揃えであったり、店舗数であったり、どのような違いがあるのか気になったため調べようと思ったのである。

2. 事前研修の内容

事前研修では、名前やよく使うフレーズ、台湾事情を学んだ。名前では、中国語 I で習った時と台湾での名前の発音が変わったように、地方によって、それぞれの方言が沢山存在し、違いがあることを学んだ。日本と共通していると発見が得られるとともに、日本語と同じように習得が難しい言語であると納得した。よく使うフレーズは、中国語 I の復習や新しい単語を学べ、台湾事情でも、台湾住民の構成や戦後の台湾、政治状況など興味深いことを学ぶとともに、これからの中国と台湾の動向により一層注視したいと考えた。

個人課題では、前述した台湾のコンビニ事情を調べた。事前研修で調べて分かったこととしては、台湾はコンビニ大国であるということだ。100メートルに一軒はあるといわれ、主に、セブンイレブン、ファミリーマート、OK-MART、Hi-Life の 4 チェーンが占めており、セブンは、約 5000 店舗、ファミマは、約 3000 店舗もあり、人口当たりのコンビニ軒数が世界一なのである。日本と同じ 24 時間営業で雑誌や新聞が設置されていること、ご飯ものの麺物のパッケージ容器が似ていること、ATM が置いてあるなど多くの共通点があることが事前研修でわかった。また、飲み物コーナーにあるお茶は砂糖が入っているものが多いことや茶葉蛋（台湾風の煮卵）がどこのコンビニにもあると学び、実際に飲食してみたいと

考えていた。

3. 研修中に調べたこと

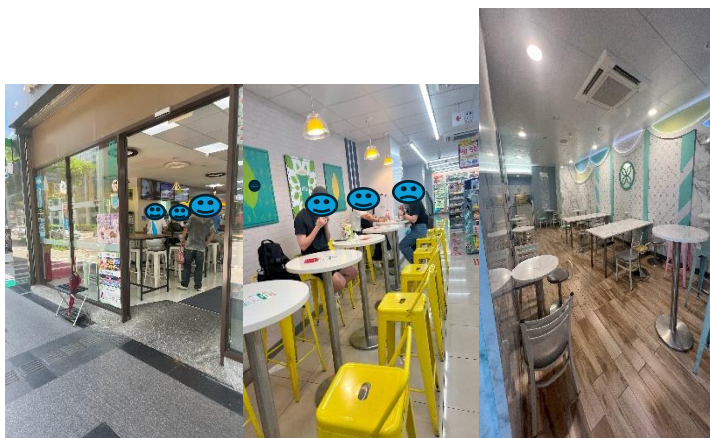
研修中に調べたこと、発見したこととして、初めに、日本と同じように本当にコンビニの数が多いなと実感した。バスで移動中も進むたびに、コンビニが見られ、事前研修で調べたとおり 100 メートルに 1 軒はあるというのも納得した。台湾で初めてのコンビニは、敏実科技大学に付属する OK-MART であったが、大学の外に出ると OK-MART が全く見られ



ず、ほとんどセブンとファミマであった。

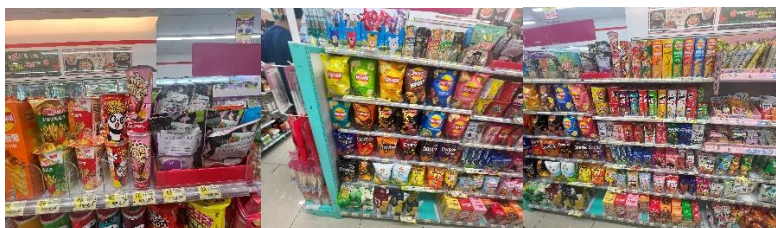
そして、一番印象に残ったのが、左の写真の茶葉蛋(台湾風の煮卵)である。私自身 5 店舗以上、コンビニに行ったのだが、この茶葉蛋は、行ったすべてのコンビニにあり、台湾のコンビニは全部同じ匂いがした。事前研修で食べようと思っていたのだが、強烈なおい

だけで充分だった。



台湾のコンビニは、どこのコンビニにいても休憩スペースがある。広さも大きいところが多い。しかし、どこのコンビニもトイレが設置されていないため、食べ過ぎ、飲みすぎには注意したいと感じた。

次に調べたことは、商品の品揃えや容器、パッケージである。商品の品揃えやパッケージは、ほとんど日本と同じで、下の写真のように日本で売られている商品、日本産の商品も多かった。雑誌コーナーの品揃えでは、日本の 2 分の 1 もなかった。



日本
←



商品の品揃え



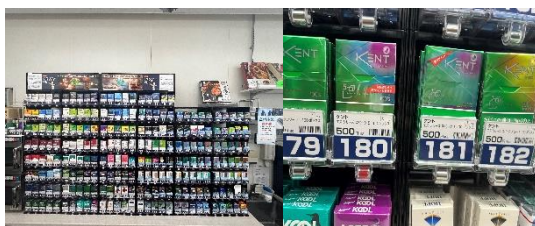
台湾←

・雑誌コーナー比較

2 つ分のケースがお茶で埋まるほど種類がたくさんあった。私は、事前研修で気になった、砂糖入りのお茶を見つけたため、買って飲んでみたが、口に合わず、その後は無糖と書いてあるものを選んで飲むようにした。



最後に、たばこコーナーである。



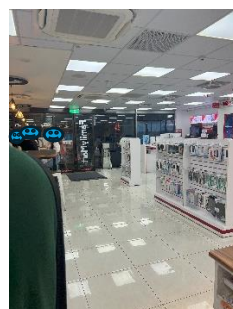
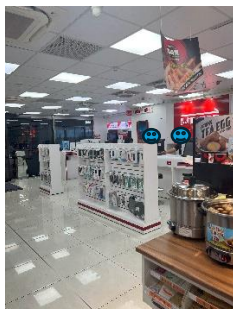
日本↑



台湾↑

発見したこととしては、台湾では、写真だけで商品自体を表に置かないということが分かった。品揃えは、日本と同じくらい充実している。特に印象に残ったのは、パッケージである。パッケージは、みる人、買う人に、たばこを吸う気をなくさせるような、また、気分が悪くなるような絵柄であり、もともとたばこに興味ない私だが、より一層吸わないという気持ちになった。健康をまもるため、また、喫煙率を減らすためにこのようなたばこのリスクが一目でわかる取り組みは、とても画期的だと感じた。

・おまけ



台湾で私が行った、ファミリーマートでは、携帯ショップが併設されていた。

日本では、なかなか見られず珍しいと思ったため写真に収めた。

4. まとめ（全体の感想）

私は、今回の台湾研修で、全体の感想として、台湾の人たちの温かさ、優しさを感じた。全然話すが、得意ではない私にも日本語だったり、翻訳機を使ったりして、声をかけてくれて、私も積極的に話すことができたし、友達も作ることができた。また、台北車站を乗り過ごして迷ったときにも、細かく案内してくれるなど、たくさんの人に助けられ、台湾がより一層好きになるとともに、忘れられないとても貴重な時間を過ごすことができた。そして、私は、台湾の人たちのように、積極的にコミュニケーションをとり、困っている人がいたら、声をかけたり、手助けしたり、行動に移せるような人間になりたいとこの台湾研修を通じて思った。

1. 台湾に行こうと思ったきっかけ

私が台湾研修に参加した大学の中国語の授業を受け始めた時に中国語の発音が面白く、普段ではあまり意識することのないイントネーションの違いで意味が大きく違うと言うことに衝撃を受けて簡単な会話だけでもネイティブの人とやってみたいと思った。説明会を受けて、漢字の表記が多いなど、日本人が初めて訪れる海外として向いているということもあり、大学生のうちに幅広い視野を持ちたいと思った。食べるのが好きでその中でも好きな中国料理を本場に近い味で食してみたいと思った。野球が好きで、去年自分の応援しているチームから推しの選手が台湾に帰ってしまい、台湾はどんなところなのだろうと漠然と考えたことも。

2. 事前研修にて

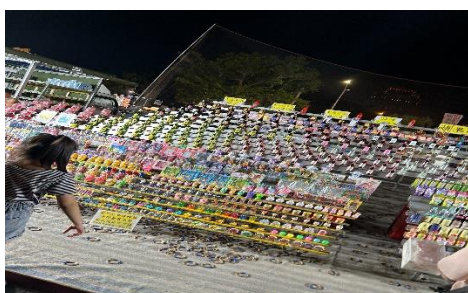
事前研修では初めに台湾の成り立ちや日本統治時代の歴史の流れを学習した。戦時中の日本は私の中でもイメージが悪く、統治(支配)されていた国の日本人のウケはあまり良くないものだと思っていたが、その時代の文化も含めて台湾であるという台湾の人の考え方から、台湾の人の寛容さを感じ、台湾に行っても日本人として良い印象を与えられるようにしないと行けないなと少し気が引き締まった。前述したように野球が好きで台湾でも野球が人気だと調べ学習で情報を得た。なぜ人気なのか、台湾の学生のよくやっているスポーツはなんなのかを見てこようと思った。私の班は、5.6 日目に訪れる台北散策の調べ学習と発表を行な夜景が綺麗なことでお馴染みの九份や、台北 101 などを中心に、付近の観光地を調べた。私は九份をピックアップしたが、金鉱で栄えた街の博物館や滝があることを知り、より台湾に行くイメージが深まった。

3. いざ台湾へ！

私が台湾に着いて初めて感じたことは、建物の構造もライフラインのシステムも日本とほとんど変わらないことだ。電車も、日本の特急電車のようなものがあったり、ホームにドアがあったり、日本でも見たことのある景色が多かった。一方で、日本と比べて違うところは、現地の人々が自転車ではなく、バイクでの移動を主にしていたことだ。車の停止線の前にバイクの待機場所が設けられるほどであった。バイクのヘルメット専用の店が多く見え、印象的だった。



新竹の敏実科技大学では、現地の大学生たちとの交流を図った。町中の夜市に同行してもらい、台湾料理や射的などのアクティビティを楽しんだ。お互いに言語が分からない状況でも、翻訳アプリを使うことや共通の話題を見つけたことで、充実した時間となった。私が一番思い出に残ったのは、台湾で毎年行われている十五夜の BBQ に参加したことだ。200人近く集まったパーティーのような催しで、カラオケをして盛り上がった。今までの人生の中で大人数の前で歌うことはなかったが、この経験を経て、前に出て表現をする自信がついた。



台北では、事前研修で調べたことをもとに市内やその周辺を散策した。主に十分と九份へ向かった。華やかな台北とは変わって、山に囲まれた土地で先住民の生活していた跡が残っている場所だった。日本統治時代の話をガイドさんに教わりながら、今は使われていない線路や赤い装飾が施された像など、現代とは少し離れた光景を目にした。九份ではジブリ作品を思わせるような夜景が鮮やかできれいだった。また日本人観光客が多く、その他にも韓国の団体など非常に多くの観光客でにぎわっていた。



4. 研修全体を振り返って

台湾の野球人気について調べたいと思ったが、いざ現地に行ってみるとほとんど野球ができる施設が見当たらず、大学でも野球をやっている学生はいなかった。代わりにバスケットボールやバドミントンが学生に人気で、学校のコートで22時近くまでプレーしていた。また、台湾の学生には決まった集団があまり見られず、その場その場で一緒に楽しむ相手が変わっていた。そのため、常磐学生でも溶け込みやすく、そういった雰囲気が日本にあると良いのと思った。

私は、海外に行ったことがなかったため、漢字でどのような意味が推測できたり、交通機関の手段が多かったりした台湾は、とても過ごしやすかった。ただ、台湾は日本人より行動の時間帯が遅いため、生活サイクルを合わせることが大変だった。また台湾の人々からは、多くの厚意を受けドリンクを差し入れてもらったり、様々なおススメスポットへの案内をしてもらったりする場面が多かった。そして多くの学生と交流することで友人を作ることができ、また台湾に行きたいという思いが増した。次は、日本に招待して私が彼らのためにもてなしをしたい。そのためにも、LINE等でコミュニケーションもとり、お互いに言語の違いを楽しみながらこれからの言語学習に生かしたい。

1 はじめに

私が台湾研修に参加した動機は3つあります。

1つ目は大学生という社会人と比べて自由な時間のある時に海外へ行って日本とは違った文化や環境を経験し、自分の見聞を広げたいと感じたからです。

2つ目は中国語の授業をIVまで履修していたため、中国圏の文化や言葉、食べ物などに興味がありました。そのため実際に足を運んでそれらを体験したり、習った中国語を使って現地の方と会話をしてみたいと感じたからです。

3つ目は自分自身、国際交流や異文化に興味があるからです。春semesterでは留学生の生活のサポートをする日本人バディを務めました。その留学生と話しているうちに日本とは文化的、環境的面で異なる部分があり、コミュニケーションを行ううちに日本だけの狭い視野にとどまらず広い世界を見てみたいと感じました。

これらの3つの理由から今回の台湾研修への参加を決めました。

2 事前研修の内容

事前研修の個人課題では台湾の公共交通機関の利用のされ方やマナーについて調べました。台湾ではMRTと呼ばれる地下鉄が主要な公共交通機関になっており多くの利用者がいます。MRTは悠遊カードというものを使って利用する人がほとんどです。悠遊カードは事前に現金をチャージすることによりスムーズな電車の乗り降りをする事が出来るため便利です。またこのカードはMRTだけではなくバスや一部のお店でも使用することが出来ます。日本でいうSuicaと同じような役割を果たします。

MRTでは改札内に入ると電車内はもちろん改札を出るまで一切の飲食が禁止となっており、飴やガム、水を少し飲むことも禁止されています。破った場合は罰金があり、罰金は最大で7500元(日本円で27000円)となります。その代わり日本ではマナー的に良くないとされている車内での通話に関しては特に決まりはありません。ほかにも日本と同様に優先席があり座席の色が他と異なっています。事前に調べた際には優先席に座るのはマナー違反だとされていると知りました。

また台湾ではバスも主流となっています。日本ではバス停にいればバスが停車してくれてそれに乗るといったものが一般的ですが、台湾は日本と異なります。乗りたいバスが来たら手を挙げてバスの運転手に乗りたいというアピールを行う必要があるそうです。

現地では空港からの移動や自由行動の際にMRTやバスを使います。調べた際には日本とマナー的に異なる点が多く記載されていましたが、異なる点はもちろんのこと日本とマナーや使用する際に同じところ、似ている点などを実際に乗車することで学びたいと感じました。

3 研修中に調べたこと

実際にMRTとバスに乗車し利用している人々のマナーや乗車時のルールについて調査しました。

まず、MRTは改札に入ると一切の飲食が禁止であることについての注意書きなどが多く見られました。そのため鞆に入らないような飲み物は改札に入る前に飲み切るか、捨てるかしなければいけないと感じていましたが実際はそうではなく、口を付けなければ持ち込むのは

禁止されていないそうです。現地ではカフェで購入したような蓋つき紙カップの飲み物を持ち込んでいる人を何人か見かけました。禁止されているのは飲食だけではなくたばこを吸うのも禁止だそうです。ここは日本と同じ点だと感じました。優先席に関しては日本と同じような優先席に関する案内のようなものをみかけました。事前研修では健常者が優先席に座ることはマナー的に絶対に良くない、避けるべきといったような情報を見かけましたが、実際のところ優先されるべき人(妊娠中の方や高齢者、けがをしている人など)が近くにいないければ座っても問題ないというのを台湾の友人から聞きました。混んでいるのに率先して健常者が座るのはあまり好ましくないとしても空いていて座るのは問題ないという点は日本と同じなのではと考えました。他にも優先席の他に親子優先席のような座席を見かけました。親子連れや妊婦の方、ベビーカーを連れた方などが優先される座席だそうで日本では見かけない制度だと感じました。車内は日本と同様のつり革の他、特徴的な形をした手すりを各車両で見かけました。キャリーケースのような大きい荷物を持っている際に掴まりやすいこの手すりはとても便利だと感じました。



バスに乗車した際にも気づいた点がいくつかあります。私が乗車したバスは観光地へ向かうのに多くの人が並んでいるバスのため運転手に手を挙げて乗車のアピールをする必要はありませんでした。日本と異なると感じた点はバスの乗り降りの際のスピードです。日本のバスは降車の際は目的地に到着して完全にバスが停止してから降りることを促されますが、台湾は自分の目的地に近づいたら完全に停車する前に動き出す人がいるという点です。乗車の際も乗客が座席についていないのに動き出すことがほとんどでした。台湾の友人に聞いたところ日本のような乗客の安全性を最優先するような規則はなく、これは多くのバスで当たり前のことだそうです。スピードも早く慣れるまでは時間もかかりましたが、ルールやマナーを理解すると電車よりも多くの地元の停車駅があるためローカルな場所に行きたいときには便利だと感じました。



個人課題以外にも台湾の研修で印象に残った点がいくつかあります。

一つ目は日本のキャラクターや娯楽の文化が台湾に多くあることです。駅やコンビニには日本のガチャガチャが多く設置してあり日本文化の人気の高さを実感しました。また雑貨屋では日本のキャラクターとのコラボ商品も多くありとても親しみを持ちました。

二つ目は台湾の学生の人柄です。個人差は生じると思いますが台湾の学生はとても親しみやすく社交的な人が多いように感じました。日本人は初対面の人に対して苦手意識を持つ人が多いと思いますが台湾の人は初対面でも明るく声をかけてくれ、遊びに誘ってくれたり飲み物をご馳走してくれたり日本人にはあまりいないような性格の人が多く驚きました。一緒に授業を受けている際も先生と学生の距離が近く、教室のいろんな場所から先生へ質問していて授業スタイルも日本の大学とは少し異なっているのではと感じました。お店へ行くと学生だけではなく大人の方も明るく声をかけてくれるため台湾の国民性なのかと考えました。

4 まとめ

今回の研修に参加してインターネットや教科書には載っていなかったようなことを実際に見て体験できる特別な機会になったと思います。優先席に関するマナーは日本と似通っている事があったり、バスに関しては乗らないと車内の雰囲気はわからなかったと思います。電

車やバスは日本だけではなく世界中にあります、その中でも少しマナーが違っていたりしてそれらを体験できる機会は貴重なものだと感じました。文化や環境の違いによる人の考え方や根本的な性格の違いなども人と交流することで学ぶことが出来ました。中国語の授業で習った単語や簡単な文章を使って現地の学生と会話が出来たのは自分が学んできたことの自信に繋がり、意味が通じたときの達成感はとても大きく嬉しかったです。台湾の人はみんな積極的で明るく、とても親しみやすい印象を覚えました。言葉が完璧に通じなくてもジェスチャーや翻訳機、簡単な英語をつかって積極的にコミュニケーションをとってくれるその姿勢は私も見習いたいと感じました。

台湾に行く前は食べ物や水が口に合うかどうかや言葉が通じない人とのコミュニケーションの方法など多くの不安がありましたが、実際に行ってみるとそれらは全く問題なく、とても充実した時間を過ごすことが出来ました。得るものが多くあった台湾研修に参加できて本当に良かったと感じました。

1. はじめに

私が台湾研修に参加したきっかけは、もともと海外に行きたいという気持ちがあり、大学に入学して初めての海外研修が今回の台湾研修だったからだ。また、長時間のフライトに苦手意識があったことから、台湾なら比較的日本と近く、行きやすい距離にあると考えたからだ。さらに、漢字を使う文化があり、大まかな意味を把握することができると考えたことと日本語が通じやすいと聞いたことがあり、初めて海外に行くには向いている場所だと考えたからだ。

2. 事前研修の内容

事前研修では、台湾の民族である客家の文化や生活する上でのルールを具体的に調べた。

客家というのは、異民族の過酷な支配と戦乱から逃れるために台湾に後から移り住み、独自の文化を持った民族だ。言語は客家語で、伝統建築は土楼という巨大で円形または四角形の集合住宅である。土楼には通常外部からの立ち入り禁止で、180 cm以上の厚い土壁と木の骨格から成り、高さは3階から5階で、80家族以上が生活している。この建物は、通常1つしか入口を持たず、その入口も、鉄板で頑丈に補強された厚さ10 cmから13 cmの板戸で守られている。建物の最上階には、盗賊を防御するため、狭間（堀などに開けてある防御用の穴や窓のこと）がある。中華人民共和国の福建省にある土楼は、世界遺産に登録されている。



そのほかにも、苗栗市で行われる『火旁龍（ぼうりゅう）』という風習は長い歴史がある。「火旁」は客家語で「炸（爆破）」の意味があり、火旁龍とは「爆竹と龍の舞」のことで、厄除けと招福の作用がある。迎春や招福といった意味だけでなく、伝統的な習俗や文化を伝承していくという意味も込められている。



台湾で生活する上でのルールはいくつかあり、代表的な例の1つ目は、お手洗いで紙を流さず、ごみ箱に入れること。2つ目は、地下鉄（MRT）では、ホーム内・電車内飲食禁止であること。3つ目は、水道水は基本飲めないこと。4つ目は、飲食店では基本、先払いで注文したい商品を書いて受付に持っていくこと。5つ目は、エスカレーターは右に立つことであった。

3. 研修中に調べたこと

事前研修の中では、台湾の人達の生活に着目し、日本人と違う習慣などがあるかどうかを

調べようと考えていたが、実際に台湾に行ってみて興味が湧いたことは、台湾の人たちの日本人への関わり方や人への積極性、特に初対面の人に対する距離の詰め方と、もてなし方に着目して観察していった。

1 日目は、15 時半ごろに敏實科技大学に到着し、その後自由時間となった。グループで大学内を自由に散策していた時、大学内にあるコンビニエンスストアの場所が分からず、外でバスケットボールをしていた 2 人の学生に、グループの皆川さんが英語で話しかけ、理解した学生 2 人はコンビニエンスストアまで案内してくれた。初めて会う外国人で戸惑いや驚きもあったと思うが、知らない人優しくできる台湾の方の人との関わり方に感動し、もっと台湾の方と関わっていきたいと思わせてくれるきっかけとなった良い体験だった。

2 日目は、午前 9 時から歓迎式と交流会があり、日本の学生が用意した日本語の漢字の意味と中国語の漢字の意味が違う漢字を使ったゲームを行った。日本の学生のミニゲームにも真剣に取り組んでくれてうれしくなった。午後 1 時から台湾の学生とグループを作り、AI を使った授業を体験した。台湾の学生は日本の学生と会話するときに積極的に翻訳機能を使い、日本との文化の違いに興味を持っていた。その後、午後 5 時過ぎに竹北夜市に訪れ、台湾の学生が夜市の案内や屋台での購入の仕方を教えてくれた。屋台を回らる中で驚いたことは、台湾の学生がいろんな食べ物をたくさん買ってきてくれることだ。あとでお代を払おうとすると、え！と驚かれ、お代は受けとってくれなかった。台湾では、もてなす側がお代を出す習慣があることを初めて知った。



3 日目は、午前中に 3 時間、中国語の授業を受けた。日本語にはない発音で、なかなか難しく何回も何回も発音を教えてもらった。簡単な挨拶や単語の繰り返しだったのにも関わらず、熱心に教えてくれたので楽しく中国語を学ぶことができた。中国語の自己紹介文の中に“敬請多多指教”という文があり、台湾の子が“多多”を指さして、“これはヤクルトだよ”と教えてくれて休み時間を買ってきてくれた。教えてくれるだけでなく、買ってきて実際に見せてくれるという行動力に驚かされた。



4 日目は、お昼に北浦老街に初めて一緒に台湾の学生 4 人と市場を散策し、お昼ご飯を食べた。初めての学生だったが、私たちのことを気にかけてくれて、たくさん質問をしてくれた。昼食を食べたお店では、私たちが頼んだ料理を台湾の学生は当然のようにおごってくれたので、2 日目の経験を生かして台湾の学生に感謝を伝えた。そうしたら、みんないいんだよ～という感じだったので、少し台湾の習慣に適應できていると実感できた。夜には、大学内でバーベキューがあり、台湾の学生約 150 人と日本の学生 18 人で混じって行った。その中には、これまでに関わってきた学生が数多く参加していて再会することができた。バーベキューの傍らでカラオケをしており、台湾の学生が日本の曲を通して歌っている姿を見て、日本を近くに感じているのだとうれしく思った。バーベキューの終盤では、今まで関わってきた学生や新しく関わった学生と写真を撮り、楽しい思い出を作ることができた。バーベキュー中で驚いたことは、関わっていない台湾の学生



から連絡先の交換や写真の申し出があり、人と関わる積極性をすごく感じた。

5 日目は、午前中に 3 時間の中国語の授業があり、3 日目の続きから行った。授業の中盤では、フルーツの名前を使ったゲームを行い、楽しみながら中国語を学ぶことができた。授業の終盤では、先生と会話形式での発表があり、ノート見ることができなかったのが緊張したが練習を何回もしていたので何とか乗り越えることができた。夜には、日本をモチーフにしたご飯屋さんで中華料理を堪能した。初めて食べる料理と円卓に感動し、最後の新竹での思い出を作った。

6、7 日目は、グループ別行動になり、大学にいたときのように深く関わることはなくなったが、有名な観光地に行くと店員さんが日本語で話しかけてきて驚きを隠せなかった。そして、海外の人だからと言って接客に物怖じせずに堂々と話しかける方が多くて、日本との違いを大きく感じることもできた。



4. まとめ

私が今回の台湾研修に参加した感想は、一言でまとめると“日本では味わえない刺激を得られる”となる。飛行機で 3 時間、時差 1 時間の比較的近い台湾でも、人の積極性や文化の違いをこれほどまでに感じることもできたなら、違う国はどうなのだろうと考えるようになれる。それほどまでに、違う文化に触れるというのは大事なことで、人生の経験の中で重要な役割を果たしているのだと実感できた。そして、日本人にはあまりみられないマインドを持っている台湾の方々との交流は自分の積極性を高めてくれる良いきっかけとなった。

この経験を通し、自分の中で海外に行くハードルが少し下がったのでまた機会があれば、また海外に行きたいです。

1. はじめに

私が台湾研修に参加しようと思った理由は、海外に興味があったのと何か新しいことに挑戦してみたいと考えていたからだ。大学生になり大学生活に慣れてきたころに学校生活があまり楽しくないと感じ、今まで自分が経験したことがないことに挑戦してみたいと思うようになった。また、もともと海外に興味があり海外研修に参加したいという思いから説明会に参加したところ台湾は初めての海外にちょうどいいと教えてもらったため参加を決めた。私は、この研修で台湾の方と沢山交流したいと思うと同時に台湾のマナーについて調べていきたいと考えた。

2. 事前研修の内容

事前研修で調べたことは地下鉄での飲食禁止、トイレトペーパーは流してはいけない、食事は食べ残してよい、乾杯は何度もする、挨拶はお辞儀ではなく握手で行うなどである。私が事前研修で調べたことで一番驚いたのは地下鉄での飲食禁止である。地下鉄で飲食をしてしまうと罰金を科せられる。その理由は地下鉄の環境を清潔に保つことと安全性の確保をするためである。乗客が飲食をして食べ物のカス等がネズミやゴキブリなどの発生につながり設備の動作に支障をきたしてシステムの安全性を損なう恐れがある。また、食事のマナーには次のようなことがある。食事は位の高い人や客人から先によそうことや、料理は自分の目の前に回ってきてからよそう、食事は位の高い人や客人より先に食べてはいけない、乾杯は飲み干すことを意味する、お箸はご飯やおかず突き立ててはいけない、お箸で人を指してはいけない、お箸を持った手でスプーンやおたまを持つてはいけないなどである。事前研修でマナーについて調べて考えたことは日本と同じマナーがある一方で日本とは違う予想もつかないようなマナーがあることだ。事前研修で調べた内容から実際に台湾のマナーを体験して考えを深めていきたいと考えた。

3. 研修中に調べたこと

私が台湾についてまず驚いたことはバイクの多さや道路に関することである。台湾に行くまで日本と同じようにほとんどの人が車で移動するのかなと考えていた。しかし、実際に行ってみるとバイクの数が圧倒的に多く学生もバイクで登校している人が非常に多かった。また、二人乗りはもちろん3人や4人で1台のバイクに乗っていることと町中に多くの数のバイクがとめられていることにとても驚い



た。外を歩いていて感じた日本との違いは信号機にもある。台湾の信号には時間が表示される。また、歩行者用の信号機は青になると動き出す。赤信号になるまでの時間が表示されることで焦ることなく渡れるのでとても便利だなと感じた。



台湾の学生が夜ご飯に連れて行ってくれたり一緒にバーベキューをしたことで台湾でのおもてなしや気遣いの文化に

気づくことができた。外に行くと台湾の学生は私たちに飲み物を買ってくれた。

そこから台湾にはお客さんに食べ物や飲み物を買ってあげるおもてなしの文化があることを知った。お客さんに多くの食べ物を買って



あげるおもてなしの文化は日本とは違うマナーの1つである。台湾の食べ物の特徴は量が多いことだ。お店で食べた時以外にも調理実習で作った水餃子が食べきれないほどあったことや飲み物が大きいなどと日本の料理より多いと感じた。このことから、お客さんに満腹になってもらうことを大切にする台湾のマナーが表れているのかなと考えた。また、台湾の学生とご飯を食べて感じたことは台湾人にはすっぱいものが苦手な人が多いということである。パイナップルジュースや少し酸っぱいドライフルーツなどを食べたがらない人が多いと感じた。そのため、台湾の食べ物には甘い味付けのことが多いと考える。



4. まとめ

台湾研修に行き得られた一番大きな経験は研修でなければできなかった現地の学生との交流である。台湾人は日本人に友好的で優しくフレンドリーな人が多い。中国語ができなくても多くの人と話すことができ、言葉が通じなくてもコミュニケーションをとる方法はいくらでもあると感じた。また、待つのではなく自分から声をかけることで台湾のマナーや台湾のことなど多くのことを知ることができたと考えている。実際に台湾に行きそこでマナーを体験すると同時に現地の学生と交流することで台湾のことを深く知ることができた。今回台湾研修で体験したことを忘れず今後に生かしていきたい。

事後研修課題

看護学部看護学科 1 年

1. はじめに

今回、台湾研修に参加しようと思ったのは、人生で 1 度は海外に行ってみたいと思ったことが最大の理由だ。行けるなら早く行きたいと思っていたところにちょうど台湾研修の案内を見て、日本から遠すぎず、漢字を使っていて初海外に良いということもあり、台湾研修への参加を決めた。

2. 事前研修の内容

私は台湾の食べ物について興味があったため、事前研修では、客家の料理についてと台湾で食べる食事の味付けについて調べた。客家料理には、大きい鍋で蓋をしてとろ火でゆっくり煮込むことを意味する炆(ブン)と少量の油で強火で短時間の加熱調理をすることを意味する炒(ショウ)と呼ばれる調理法がある。味付けが全体的に濃く、塩味も強めなものが多く、こってりとあぶらっこいものが特徴としてあげられている。また、日本と同じように主食は米が多く食べられている。客家の 1 番有名といわれている B 級グルメである粿條(ハンチョウ)や粿粿(客家もち)など、米のアレンジ料理も多く存在している。そして、台湾料理にはにんにくやねぎの他、ナツメ、クコの実、生姜、八角など独特な香りの食材もよく使われていて、淡泊な味付けになっている。研修中は、味付けに着目して食事をしたいと思う。

3. 研修中に調べたこと

研修中、実際に客家の伝統的なお茶と一緒に粿粿(客家もち)を食べることができた。日本のお餅と大差なく、粗めの甘い粉にまといわれていて、きな粉餅のような見た目と味で箸が進んだ。台湾の学生たちと一緒に作ったお茶は、友達は甘いと感じていたが私は全く甘さを感じず、同じお茶を飲んでここまで感じ方が違うのはなぜか不思議だった。ピーナッツやかぼちゃの種をすりつぶして作るという初めての経験でとても楽しかった。また北埔で、客家の料理も堪能することができた。どの料理にも、ニラやニンニクが効いていてしっかり濃い目の味付けで、特に右写真のイカの炒め物が強くニンニクとニラを感じた。この日、一緒に過ごした台湾の学生たちと食事について話を聞くことができた。濃い目の味付けをあまり好まないことや、酸っぱいものなどの刺激を感じるものが苦手なことを教えてくれた。確



かに、一緒に食事をしたときあまり食べていなかった印象を受けた。また、食べ物は無駄にしないようになるべく残さないということも教えてくれて、これは日本と通じている部分だと感じた。

台湾でいろいろなものを食べて感じたのは、やはり日本で人気のあるルーローハンや小籠包、ダージーパイなどはとても美味しくて日本人の口に合うような味付けだったことだ。癖のある香りや風味があまりなかった。どちらかというと薄味を好んで食べる私たち日本人にはぴったりだと感じた。しかし一方で、臭豆腐やコンビニで売られている卵は、日本では嗅ぐことのないような強烈な匂いをしていて、積極的に食べてみよう！とはならないものだった。角煮などでは使われることのある八角が、私たちの嗅覚に合わないんだと思った。



4. まとめ

今回の台湾研修はとても濃い8日間だった。日本の料理とは違った少し癖のある味や匂いが、研修中に十分すぎるくらい満喫していたが、もう既に恋しくなっている。最初のうちは、ご飯の味の違いやトイレの使い方など戸惑うこともあったが、すぐに慣れ、快適に過ごすことができた。你好や謝謝しか知らなかった中国語も、自分の名前や場所、果物などわかる言葉のバリエーションが増えて嬉しかった。中国語も、真面目なザ・授業かと思っていたが、歌やゲームを交えながらだったから、中国語を学ぶことに対する苦手意識や抵抗が全くなく楽しく取り組むことができた。また、台湾の学生はもちろん、町中にいる台湾の方が日本語を話せる方が多く、本当に親切で驚いた。翻訳機や英語も交えながら、積極的に話をしてくれて、中国語の発音や電車が合っているか、お店の場所はどこかなどたくさんのことを教えてもらった。それと同時に、日本に住んでいる日本人が、中国語で何か聞かれてもこうはならないだろうなとも感じた。積極性や目を見て相手の反応を見ながら話す姿勢を見習いたい。台湾で過ごした時にいただいた多くの思いやりや親切を、これからの生活に生かしていけるように過ごしたいと思う。

